

こんなことをしています！こんなところでごんばっています！

地域おこし協力隊通信

獅子島キッズ×大学生の1か月

獅子島ウォークに参加した学生と児童



1月14日から2月12日の約1カ月間、ZEN大学（学校法人日本財団ドワンゴ学園）の1期生3人が、長島町の生活で地域を学ぶプログラムを体験し、地域おこし協力隊の渋谷日和さんが企画・受け入れを担当しました。同大学は、令和7年4月に開学した実学に特化した完全オンラインの大学で、国内外100以上の地域や企業と連携したプログラムなどを行っています。

今回は、学生たちが本町で暮らしながら、獅子島にある施設、長島町子ども第三の居場所「スマイルアイランド」でボランティア活動を軸に実施。宿題の支援や屋外、ボードゲームなどで一緒に遊び、子どもたちとの親睦を深めました。

1月の中旬からは、施設に通う小学生約40人と共に「獅子島ウォーク」の参加者に向けた獅子島の魅力を伝える看板を作成しました。学生たちは、ICT

スキルを生かしてデザイン作成を指導。子どもたちは、タブレットの操作方法を教わるとすぐに習得し、思い思いの獅子島や自身の好きなものなどを看板に表現しました。

当日は、5カ所に設置された看板を立ち止まって鑑賞する参加者の姿も多く、活気あふれる獅子島の様子を伝えることができました。施設での活動のほかにも、学生たちは、島の暮らしを体験。繁忙期である甘夏収穫やジャガイモ収穫にも挑戦し、町民と深く関わりながら長島の一次産業や暮らしを体感しました。

最終日の2月12日、学生たち

は、1カ月の活動報告を行い「地域との新しいコミュニケーションや、子どもたちとの交流など、密度の濃い1カ月で、個人では得られない貴重な経験ができた。来年の獅子島ウォークでは、子どもたちと再会できることを楽しみにしている」と発表。プログラムを終えて渋谷さんは「学生と子どもの双方にとって刺激ある1カ月だったと思う。高校の無い町でも、大学生が学びながら暮らすことができた。これからも、長島町に関わる学生を迎えるプログラムづくりに積極的に取り組んでいきたい」と話しました。



↑作成した看板の一部